2025年1月12日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

人間を繕（つくろ）う

［マタイによる福音書4章18～22節］

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。 二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。

[1]　日常の中に響く主の招きの声

　今日の聖書箇所は、マタイの4章からです。最初の弟子たちの召命の出来事が記されています。イエス様が 「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」（4:19）と、弟子たちを招かれた有名な箇所です。先週はイエス様のバプテスマの記事を見ましたが、新しいスタートに相応しい箇所だったと思いますが、今日の箇所も新年に相応しいと思います。ここは、これから福音書の物語が展開していくとても重要な場面ですが、その前に記されている出来事もとても重要で、そのことによって「舞台は整った」と言っても良いのではないかと思います。それは、4章の初めにある、イエス・キリストが荒れ野で悪魔（サタン）から誘惑を受けた、という出来事です。

　先週見た箇所で、神の子イエス・キリストは、神の子でありながら、水の中に入り（死をも象徴している）、バプテスマをお受けになりました。その時聖霊が降って、天から、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」（3:17）という声が聞こえたと記されています。これは父なる神による‟神の子イエスの派遣式”と言っても良いようなことです。公のご生涯のスタートを切ったイエス様でしたが、その公生涯の初めに、主は荒れ野において悪魔（サタン）からの誘惑を受けられ、そして、悪魔を退けた、悪魔に勝利されたのです。悪魔という存在も、イエス・キリストの前には退散するということがハッキリして、つまり舞台の第一幕が本格的に始まって、それを受け、今日の‟弟子たちを招く”という物語に展開して行きます。これから弟子たちと一緒になって、主の御業が進んで行く訳です。

　さて、私たちは“12弟子”と言うとどこか特別の存在のように思うことがあると思いますが、実は本当に普通の人々だったということを聖書は告げています。今日の箇所ではペトロとその弟でしょうか、アンデレ、また、ゼベダイの子であるヤコブとヨハネの兄弟がイエス様に招かれるのですが、彼らは湖で漁をしていたり、或いは今網を繕っている、漁を生業としていた普通の者たちでした。きっと陽に焼けた、ひげ面の、筋肉質の男たちだったのではないでしょうか？そして聖書の別の箇所では弟子たちのことを「無学な普通の人」（使徒4:13）と言っています。その彼らの日常の中に、主イエスの招きの声が響いて、その「声」が彼らの生き方の方向に大きな変革をもたらしました。イエス様は何か彼らを説得したのではないのです。一言です。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」。―神様の言葉というのは、空しくは地に落ちないのですね。何かが起こる。創世記の初めに、神が「光あれ」と言わると光があった、と記されているように、神の言葉は事柄を起こすのです。それは一言で充分です。私たちはともすると「俗」と「聖」を切り離して考えてしまうことがあると思いますけれども、この世の只中、私たちの日常の中に神様の言葉が響く時、それは、神が支配される「聖」の領域になるのです。この教会の建物もそう。この世の場に置かれながら「聖」。私たち自身もそうです。「俗」のこの身でありつつ、神様が捕えて下さっているから「聖」なのです。その意味で私たちは自分自身を尊い者として受け止めなければいけないでしょう。

さて、ペトロとアンデレ、またヤコブとヨハネは、イエスの招きを受けると、立ちどころに従って行きました。つまり、神様に召されるとか派遣されるって、何か特別な準備とか必要ないのです。むしろその必要を拒否さえしていると言って良いと思います。‟「無学のただ人」として行きなさい。必要なこと・必要な物は、その時その時、神ご自身が備えて下さる“ということ。何という励ましでしょうか！また、何とシンプルな生き方でしょうか!?　神様の言葉は、それをまともに聴く者たちを変えていくのだと思います。

[2] イエス様と共に「人間をとる漁師」とされていこう

私は今日の箇所というのは、その意味で、俗っぽい私たちを生かす、とても励ましに満ちた聖書箇所だなぁと思ったのです。信仰者のスタートは、先週のバプテスマもそうですけれども、自分の決心から始まっているのではなくて、神様が私たちをご自分のものとして下さり、さあ、一緒に歩こう！と招いていて下さっている所から始まっているということです。そして、主イエス様は、私たちをも「人間をとる漁師にしよう」と遣わされているのです。これは凄いことだと思います。

所で、「人間をとる漁師」って何でしょうか？「とる」。人間を「獲得」するということですね。一般にはこれは「伝道する」ということに捕えられます。あなたは魚を得る働きではなく、人間を神様に導く働きをしなさいと。単純にはそういうことでしょう。しかしなぜイエス様はわざわざ「人間をとる」と言われたのかな？と考えたのですが、私は、イエス様は、真の意味で「人間を取り戻す」という働きをされる、その働きをあなたもやってほしい！という意味もあるのではないかと思いました。罪に支配されている私たちは、本来の神の形を失っている。その本来の神様の形を取り戻す・回復させるための働きをわたしイエスはする。その私の働きにあなたもついてきて欲しい、とおっしゃっているのではないかと思います。「そんな大それたことは私にはできません」と私たちは言いたくなります。しかし、そうじゃないのです。そうじゃない。私たちは、それこそ何も準備しなくていいのです。私たちはクリスチャンとされました。もう既に「地の塩」「世の光」とされているのです。そうです、皆さんが日常生活の中にあって、礼拝生活を作っていること自体大きな証しです！人知れずこっそりとあの人この人のために祈っている、それを神様がお聴きにならないということはあり得ないと思います。私はそう信じます。イエス様は、既に悪魔（サタン）の誘惑にあっても、御言葉を語って勝利して下さったではないですか！私たちも、イエス様によって、悪魔の縄目ではなく、神様の大きな風呂敷の中に人々を招き、また、一人ひとりの傷や痛みを和らげ、優しく接し、また、罪が赦されていることを大胆に語り、その方の破れを、それこそ「網」ではありませんけれども、「繕って」行く仕事―人間を繕って行く仕事―をイエス様に押し出されてするように招かれているのだと思います。

　私たちはこの世的には、大した人間ではないかもしれません。いわゆる大きな権力は持たないかもしれません。持ったって良いのですけれども、しかし、何かこの世のものにしがみつくのではなく、それからも自由になる生き方、本当の意味で誇りを持てる生き方へとイエス様は私たちを押し出して下さっている。今日の箇所はそんなことを教えてくれているように思いました。

私は、今のキリスト教会や私たちに欠けたものがあるとすれば、それは‟励まし”ではないかと思います。自分自身の反省も込めて言うのですが、これがダメとか、まだまだだとか、ネガティブなことに気を囚われがちになってしまうことがありますが、重箱の隅をつつくようなことは何にもならない、それよりもお互い励まし合いましょう。一緒に前を向いて前進して行きたいと思います。聖書は、ペトロとアンデレは 「二人はすぐに網を捨てて従った」と書いていますし、ヤコブとヨハネも「二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った」と書いています。俗っぽい、あるがままの、今の私たちのままで、イエス様について行きたいですね。イエス様が招く道は、ガリラヤの海辺の、イエス様と共に行くひなたの道です。

最後に、私がとても励ましを受けた文章で、今日、週報の裏面の「コラム」欄に引用さえて頂いたのですが、「『失望』ということがあなたの問題なら、以下の五つが解決を与えてくれます」という文章を読ませて頂いてお祈りしたいと思います。これは、アントニー・M・コニアリス著『落ちこんだら―正教会司祭の処方箋171』（ヨベル発行）からです。

**―「失望」ということがあなたの問題なら、以下の五つが解決を与えてくれます。**

**1. 世界がどのようになってゆくのかで失望するよりも、むしろ主イエス・キリストによってこの世にもたらされたものによって勇気づけられよう。  
2. 未来に何があるかで失望するよりも、むしろ未来を支配するお方を知っていることで勇気づけられよう。  
3. この世のあらゆる不正に失望するよりも、むしろこの世のあらゆる正しさに勇気づけられよう。**

**4. あらゆる罪に失望するよりも、むしろあふれかえる恵みに勇気づけられよう。  
5. あらゆる病気に失望するよりも、むしろあらゆる健康と神の癒す力に勇気づけられよう。**

お祈り致します。

主イエス・キリストの父なる神様、私たちは自分自身や世界を見れば絶望してしまいますが、この世界を本当にご支配下さっているのは神様、あなたです。私たちの人生・命もそうです。そのあなたに信頼致します。私たちが本当に人間が人間として生きるために、あなたは、ご自身のいのちさえ投げ出して下さったお方であり、また、私たちをも「あなたも私の働きに加わってほしい」と招いて下さっています。どうか、喜びを持ってついて行かせてください。その歩んで行く道は、どこに導かれるか見えないことも多いですが、神様が責任を取って下さることを信じます。この世界を、また私たちを励まし、祝福して下さい。

また、さまざまな葛藤の中におられる方と共にいて下さり、あなたの愛が一人ひとりを繕って下さいますように。主イエスの御名によって祈ります。アーメン。